

春季連休中行仙宿への来宿者の対応と補修作業

◇実施日 2018年5月1日(火)～5月4日(金)

1日晴 2日くもり後雨・夜間暴風雨 3日6時まで雨、
午後から晴 4日晴

◇参加者 乾 克巳 (5/1～5/4)

奥村順夫・竹中卓治 (5/1～5/2) 昼前に下山。

◇作業内容 5/1 笠捨山巻き道24番鉄塔までの5カ所の土留め

5/2 来宿舎6名を含めて小屋横の補給路2カ所の土留めと薪割り・水汲み

5/3 沖崎・湯川・畑林・中前氏に依る食料荷揚げ

前夜に宿泊者に依るステージ裏のガラス破損の片付けと窓枠の持ち帰り作業・薪割りを少し。

◇来宿舎 5月1日 来宿者8名と奥村、竹中、乾の11名

5月2日 雨で停滞組6名、新規来宿者9名と乾の16名、テントに1名テン泊

5月3日 来宿者7名 畑林・中前・乾 計10名

5月1日(火)晴

昨年到现在も連休中日の担当となった。

奈良市からは遠い。4時間近く掛かる。例年は小屋番の後に、この遠い熊野の山を歩くのを恒例としていたが、今年は暫くお目に掛かれてない玉岡相談役と古座川の根木さんを訪ねたくて行仙小屋に三泊とした。送られてきた予定表を見ると、前年同様初日の夜は一人となっている。一人ではつまらないので、海山の奥村さんに電話を入れて、予定が無ければ竹中さんも誘って小屋番を手伝わないかと電話を入れると、分かったと言うことになった。

朝、奈良の家を6時半に出て、途中上北山村の漁師仲間の家に立ち寄り行仙の荷揚げ口に到着したのが10時10分だった。

準備をしていると、水場辺りのところから生熊さんの何だか弾ん

だ声が聞こえてくる。その内に赤い鉄梯子を若い女性と一緒に降りて来られた。若い女性は今回が初めての「今中さん」といわれるなかなかの美人女性だった。男は概ね単純だから、若くて美人女性と一緒にになるとウキウキとして声まで弾むようだ。

今中さんはミニクーパーを運転して颯爽と帰っていかれた。

生熊さんは奥村さんが持参するビールなどをモノレールで荷揚げしてくれるために出迎えてくださった。丁度、奥村・竹中車が到着した。生熊さん運転のモノレールに奥村さんが乗り、竹中さんと二人で歩いて登る。途中、補給路の見事な補修の跡が目立った。

「これは生熊さんの仕事やなあ」と言いながら11時ごろに小屋に到着。



【出迎え】



【交代】



【シヤクナゲが咲き出す】

山上さん、川島さん、橋本さん達が出迎えてくださった。

山上さんは随分と久し振りなので、とても懐かしく感じました。

89歳になられたとか、とても信じられない程お元気であやかりたい気持ちになる。

少し早いですが、皆が揃ったところで昼食となった。

下山組はレトルトカレー、到着組は各自持参の弁当を食べた。

川島さんから今日の作業内容が指示された。

24番鉄塔付近の崩れているところと、そこまでの浮き上がった

杭を打ち込んでいく作業だ。

下山組は2時ごろに下るとのこと。我々3名は昼食も早々にして12時10分に笠捨山捲き道に出発。

竹中さんが背負う一斗缶にげんのお2個、大ハンマー1個、乾持参の携帯鋸と各自の飲み物を入れた。くいまるくん2個とトンガ1個を杖代わりに持った。

小屋を出るときに玄関の寒暖計をみると14度だった。

清々しく晴れ渡った尾根にシロヤシオやヤマツツジに混じりシヤクナゲが咲き出している。年々に季節が早くなってきた。

笠捨山捲き道に入ると土留めの崩れが目立ち始めた。

春に山川さんが頭を怪我したところやくいまるくんが斜めになり抜けているところなど、24番鉄塔までに4〜5カ所を整備。



【修理前】



【修理後】

【24番鉄塔崩れ箇所】



【修理中】



【修理後】



【修理後】

【もうヘトヘトや】

乾さんもう4時やで！
そろそろ帰ろうやという
ことになり、小屋到着は
16時30分になった。

山が崩れるのは自然現象で避けられない。
我々が自然現象に逆らいながら利用させて貰っている。
少しでも理に適ったやり方で、山の神の逆鱗に触れないようにしていかねければ災害が起きる。



小屋に帰ると来宿者が4〜5名ほど到着していた。来宿者には缶ビールを一本ずつサービスで配ると一応に歓喜の声をあげた。

すぐに自分たちの食事の支度をしないと、かえって迷惑を掛けることになる。我々の食事は管理棟ですることにして、来宿者のスペースの割り当てと小屋の決めごとである水汲みや志納金を説明して管理棟に移った。

食事の支度をしていると枚方市の東野さんという方が山彦さんに提案があるのですがと管理棟に來られた。

【提案のプレート】

話しを聞くと地藏岳より南になるとコースの指導標やテープなども少なくなり、縦走者は不安になる。写真の様なプレートを山彦が作成して寄付金を募ったらどうだろうということだった。

縦走者は何かのメモリーを奥駈道に残していきたくらいという心理があるとのこと。

樹上では3000円、樹下で2000円、地上で1000円と具体的である。

実施するのには色々難しいことがありますが、事務局の方に連絡をしておきますと言っていただいた。



食事の準備が整ったので「まあ、中に入ってください」と招き入れた。ビールを飲み歓談していると「ビールを売ってください」と、男子と女子が管理棟にきた。同じくまあ、入りなさいと招き入れた。その内に、また二人の男性が「おそいなあ」といって入ってきた。全員が吉野からの単縦走者である。

明日は朝から雨予報なので6名が行仙小屋に停滞することとなった。小屋の方には3名がいて、今夜の来宿者は8名である。

生熊さんからの食料差し入れの魚のみりん干しをカセットフーで



直火焼きにした。

まぐろのみりん干しかと思うが、海山の二人はシイラののみりん干しやという。いずれにしても最高の酒の肴で酒盛りが始まった。部屋にあった清酒「太平洋」の4号瓶と紙パックの「いいちこ」がみるみる空になっていく。

管理棟に來られた人は全員40歳台の人ばかりだ。

横浜から來たという女性は四寸岩山から高原に下り、柏木から阿弥陀ヶ森に登り返したという。昨夜は殆どの人が深仙の宿でテント泊だという。埼玉県川口市から來た男性。長野県松本市から來た男性。奈良県高取の男性。それに提案者枚方の男性。

知らない者どおしが、険しい山を歩くという共通の価値観で行動すると自然と連帯感が生まれてくる。

自分の歩き方や体験談、はたまた人生観などに及び時間は過ぎていく。來年もまた來たいと言う。

気がつくとも22時30分になっている。

「あんたらな、タダ食い、タダ飲みはあかんぞ、明日は朝から山彦の道普請や。作業を手伝ったらもう立派な山彦メンバーや」と言う。住所と名前を書いていった。

5月2日(水) 10時頃までくもり後雨

小屋番の3名は管理棟に寝たので、目覚めて6時頃に來宿者の様子を見に行くと8名の内2名が発したとのこと。明日も雨予報なので6名が停滞することになった。食料の乏しい者もいるので非常食のパンの缶詰を一人一個づつ支給した。また、銘々が小屋に備え付けられた非常食のラーメンやサトウのごはんなどを買って食べた。昨夜の約束通り、雨の降る前に作業をすることになった。

8時半ごろから薪割り・竈の湯沸かし・水汲み・小屋横の補給路の土留め作業である。

竹中さんが進んで土留め作業の指示をしていた。みな明るい顔で嬉々として働いた。文句を言う者はいない。みな進んで作業をこなした。貴重な体験の時間であった。昼前に雨が降り出したので作業は中止し、あとは自由時間とした。



【薪割り】



【竈焚き】



【土留めの道普請】



【道普請】

小雨の内に下山すると竹中・奥村組が午前中に下山した。

段々と雨足が激しくなりだした。みな一応に行かなくて良かったと自己暗示を掛けている。

することも無く、だからだと昼食を摂っていたら、13時前に7名のツアー客が、乾さんは居られるでしようかと小屋に立ち寄った。大阪のツアー会社で山彦の青木氏の紹介だと言う。

何だか疲れ果てたような様子である。雨の中で食事も出来なかった様子で、全員が小屋には入らずに立ったままでおにぎりやパンを食べている。

ツアー責任者に話しを聞くと、浦向からボックスカー一台で、Paysに入ると、初めてのカーブで10トントラックが曲がりきれずにガードレールに乗り上げて通行不能になっていた。これはいかんと白谷池郷林道に回るがゲートがあり通れず。再度浦向に戻り林道を歩き出し、暫くすると下山した奥村・竹中組の車が降りてきて事情を話すとピストンで全員を補給路まで運んでくれたとのこと。今日中には直りそうもなさそうだと余裕のない顔で話していた。

中でコーヒーでも飲み暖まって行くように進めたが、笠捨山ツアーなのでこれから出発しますといつて篠突く雨の中に消えていった。今日は山口さんが当番で到着する日だったが、朝早くに携帯に連絡が入り、前鬼まで送っていく人が駅の階段で転び怪我をしたので病院に連れていくとのこと。

事務局の沖崎さんに、明日の補給は事故状況を役場で確認してからにする様にと連絡をとり、山口さんにも連絡すると和佐又トシネルを抜けたところで、こちらに向かっているとのこと。怪我人は骨などに異常が無くすぐに戻れたとのこと。事情を話すと今回はやめますわということになり、それがよろしいと思いますと言うことになった。

今夜の小屋番は一人になった。

雨が激し降る。16時半ごろにツアー客が帰着した。唇が紫色になっていている人もいる。また、おにぎりを出して食べている人も。中に入って少しでも暖まって行くように進めたが、遅くなるからと敷居を跨ぐことはなかった。



【味噌汁パーティーで盛り上がる16名】



ツアー客も大変だが、ガイドの方も難しい対応に悩んだことと思われる。停滞組はこの様な状況の中で地藏越えを避けられたことにホッとしているようだった。

時間と共に風も出てきた。雨の中を一人到着。また、到着と新規の来宿者が9名となり、停滞組と合わせると15名になった。

小雨の時に一名が小屋の外でうろろうろしていたので、様子を聞きに行くこと、今夜はテントを張りますと言うことになり、中で暖かいものでも食べませんかと誘ったが現れなかった。

食料も乏しくなりだし、持参した自分用の食料も提供した。川島さんからタマネギを5個貰っていたので、自分の提供分のソーセージ5本で油炒めでもしようかと考えていたが、どんどんと人数が増えるので20人分の味噌汁にすることにした。

管理棟のビールも解放して16名が一つになり、昨夜以上に大い

に盛り上がった。

いいちこも太平洋も全部飲んでしまった。

場に馴染まず、隅の方で静かにしていた人も知らない内に味噌汁パーティに参加している。全員が想い出に残る山行になったと喜んでくれた。

明日の天気予報は6時頃まで雨、その後は次第に晴れるとのこと。殆どの人は6時出発となった。

今夜は早めに寝るように19時半に消灯とした。管理棟に引き上げたが、その後は誰も来なかった。小屋は真っ暗になり休みについていた。

5月3日(木) 6時まで雨後に回復

朝6時に小屋に行くとお発のラッシュだった。

行者堂に無事を祈って行けよと声を掛け、旅立つ一人づつと握手をして見送った。「ありがとうございました。また来ます」と後も振り向かずにはげしい顔つきになって出掛けていった。

最後に残った男が「昨夜管理棟の崖から転んでステージのガラスを割った」とのこと。見に行くと見事に割れていた。

尻から窓ガラスに落ちたらしく怪我はないとのこと。全身をチェックして診たが擦り傷もなかった。

楽しい思いをさせて貰ったのに申し訳ないと言って、修理代として一万円をおいていった。来年また来ます、それまでも作業があり機会があれば参加したいとのことだった。

山で転んだら命は無いぞ、足が速いのは自慢にならん。無事に到着することが大事やぞ。慎重に行けよと最後に送り出した。

全員を送り出してから、誰もいなくなった小屋でノンビリと朝食を食べた。部屋は見事に片づいていた。昨夜の食器類も綺麗に洗われていた。自分さえ良ければよいという最近の風潮の中で、年齢も性別も違う初めて会った人達が、同じ目的と価値観を共有すると素晴らしい力を発揮するものだと感じた。

奥駆道を縦走すると素直な気持ちになる、不思議な心理現象を生

むようだ。これは歩きながら祈り、自分自身と戦いながら、体力の限界の状態の中で生まれる崇高な心理現象だと思う。そういった時、人はよこしまな考えより純粋な方を選ぶようだ。



【一人一人と握手を交わし出発する冒険者達】

さて、壊れたガラスを片づけようと立ち上がったところへ第三班の沖崎隊が到着した。10時頃である。

沖崎さんが役場に問い合わせたところ、昨日の内に通行可能になったとのことである。

到着は沖崎さん湯川さん中前さん畑林さんの4名である。沖崎さんと湯川さんは日帰りであり残りは一泊という予定だ。早速に

割れたガラス窓の整理に掛かった。尻から突っ込んだという事で粉々になっていた。近くで寝ていた人はさぞビックリしたことと思われた。アルミの窓枠を取り外し、沖崎さんが今日の内に持ち帰り、早い時期に持参するという事になった。



【割れた宿泊棟ステージのガラス一枚】

それにしてもよく怪我がなかったことと思う。頭から突っ込んでいたらと思うとぞっとする。救難ヘリのお世話になっていたことだろう。部屋の方へもガラスが飛び散っているので掃除機を掛けることにした。丁度カーペットの丸めたのが保管されており、それがバリアーとなり宿泊者まで飛ばなかった。取り外した窓には沖崎さんが倉庫から板を持ち出してきて、中前さんが器用に固定した。片づけた割れたガラスは、焼却炉横のピークの下に穴を掘り埋めた。

ガラスの片づけが済んだところで、少し早いが昼食にすることに
なった。

畑林さんがマグロ屋さんに勤めておられるので、生マグロのせせりといかやイサギの刺身など食べきれないほどの新鮮な海の幸がテ

ーブルに並んだ。海の無い奈良県奈良市ではほぼ口には出来ない生マグロのせせりは最高の贅沢に思われた。恥ずかしくなるほど沢山頂いた。美味かった。

さらに、夜はマグロのカマの塩焼きが加わるとか、これは日頃絶対に食べることは出来ない品である。まだ、食べたことのないマグロのカマが待ち遠しい。

これより以降のレポートは中前さんに書いて頂くことになったので、蛇足として報告させていただきます。

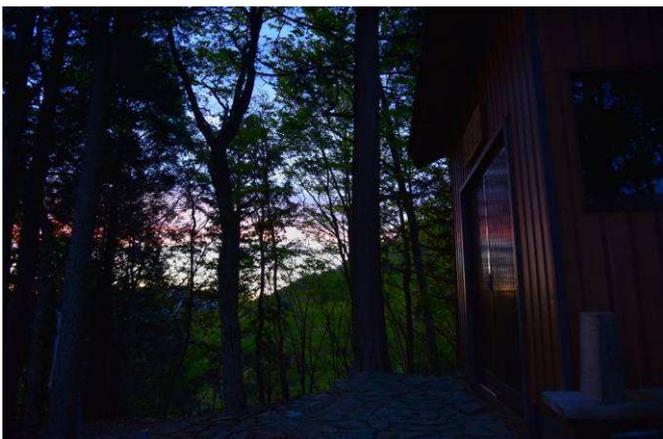
前夜までの宿泊者は40歳代を中心に、30歳代、50歳代と若者の単独縦走者で占められていた。

出発地も楊子の宿が最遠で、殆どの人が深仙でテント泊の人が多かった。今日の来宿者は7名。二日間が雨ということもあり、持経の小屋発の人で占められていた。熟年の方が多く、ノンビリと山歩きを楽しんでおられる様だった。

特別に作業もなく、翌日の天気も回復して朝から晴天との予報なので、夕食も16時30分から来宿者7名と山彦5名が宿泊棟ですることになった。

待望のマグロのカマは、昼間に沖崎さんが、倉庫からバーベキューコンロと炭を出してきてくださったので、本格的な海鮮バーベキューとなった。

私も含めて、宿泊者の殆どの方も、マグロのカマは初めてだった様で思わぬご馳走に感激されておられた。



【明日は晴天予報】



【マグロのカマバーベキュー】

中前さんと畑林さんは宿泊棟で休まれるということなので、19時20分に管理棟に引き上げることにした。
明日は9時に榎本さんとR42の小坂出合で待ち合わせて、玉岡さんと、古座川の根木さんを訪ねる予定なので、早めに休むことにした。

5月4日(金) 快晴

小坂に9時に着くため、小屋を7時に出発した。
浦向のトラック事故現場のガードレールが曲がっていたので事故現場確認ができた。
小坂に9時丁度に到着。
榎本さんと共に玉岡相談役と根木さんを訪ねた。



【七里御浜獅子岩の鯉のぼり】



【玉岡さんと】



【根木さんと古座川の滝の拝を楽しむ】2018/5/8 報告・乾 克巳